

宝来先生を悼む

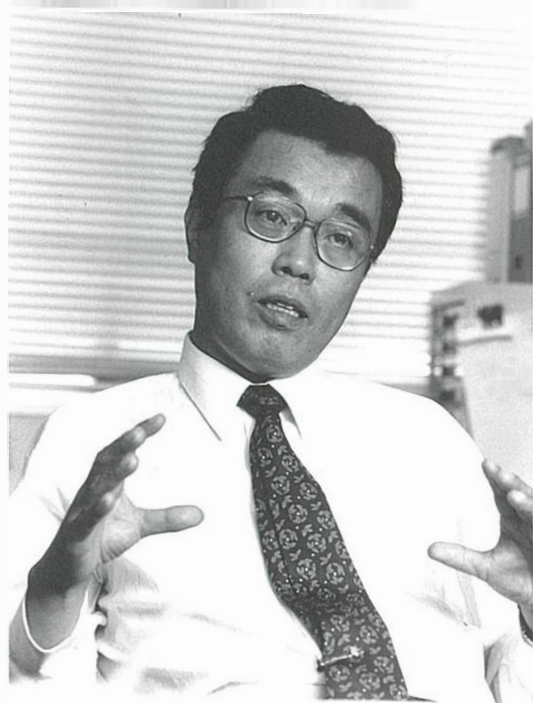
宝来先生、あなたは、総合研究大学院大学の本部が葉山の地に移り、先導科学研究科・生命体科学専攻の設置が決まると、いち早く教授として着任し、以来6年余に亘って学生指導に当たられ、最近は専攻長としての、また本学評議員としての重責をも担って来られました。ここに深い感謝の意を表わします。

研究熱心で責任感強く職責を果たしてこられた先生が、思い半ばで幽明の境を異にされ、まだまだこれからもご研究をなさりたかった事であろうと、ご遺族ともども、同僚として大変残念に思う次第です。

残された我々一同、ご遺族を励ましつつ、力を合わせて努力して参ります。今はどうか、安らかにお休みになってください。心よりご冥福をお祈りいたします。

平成16年8月13日

総合研究大学院大学長 弔辞より



研究室での宝来先生

はじめに

遅くなりましたが、宝来 聡 教授追悼記念誌をようやく皆様のもとにお届けできることになりました。月日の経つのは早いもので、宝来さんが平成16年8月10日に急逝されてからすでに2年目に入ってしまいました。総研大の葉山キャンパスも、宝来さんが考えておられなかったようなスピードで大きく変わりつつありますが、この記念誌がここでもう一度宝来さんの目指しておられたものを見直すきっかけになればと思います。本誌からもお分かりいただけるとは思います、宝来さんの研究は非常に幅の広いものでした。彼は、総合研究大学院大学の掲げる科学の総合化という立場から、フィールドと実験室での研究を両立させて、自然史の解明を目指していたように思います。この記念誌が、彼のような研究スタイルを振り返るきっかけになればと思います。本誌は総研大・先導科学研究科・生命体科学専攻の田辺秀之さんと研究室の皆様の努力の結果出来上がったものです。田辺さんはじめ研究室の皆様、ご苦勞様でした。

平成18年1月

長谷川 政美

